



ISTQB/JSTQBの最新動向 CTFL2023(Ver4.0)シラバス解説

JSTQB技術委員会

2024.10.2

講師紹介

フリー株式会社／株式会社ytte Lab



FL4.0翻訳 WG
湯本剛

ソフトハウスにて、財務会計ソフトウェア、プリンタードライバー、SCMシステム、ECサイトなどのソフトウェア・テストの業務に携わる。その後、携帯電話や家電などの組み込みソフトウェア開発でのテストプロセス改善やテストツール導入のコンサルティング、大規模エンタープライズシステム開発のテストマネージャーなどに従事する。現職ではクラウドサービスのQAマネージャーとして活動している。著書に『現場の仕事がバリバリ進むソフトウェアテスト手法』（共著、技術評論社）などがある。

2018年、筑波大学大学院にてソフトウェアテストの研究で博士（工学）を取得。

NPO法人ソフトウェアテスト技術振興協会理事。ISO/JTC1/SC7/WG26委員。

2005年JSTQB設立時から参画。

ISTQB/JSTQBとは

•ISTQB

- ソフトウェアテストに関する国際的な資格認証を行う非営利団体
- 2002年に設立



•JSTQB

- ISTQBの加盟国として、日本国内でISTQBに沿ったテスト技術者資格認証を行う組織
- 2006年より資格認証を開始



ISTQB/JSTQBの認定技術者

- グローバル（ISTQB）では、**130か国で95万7千人以上**の認定技術者
(2023年6月)



- 国内（JSTQB）では、受験者は5万人、認定技術者が**2万7千人**を突破
(2024年9月)

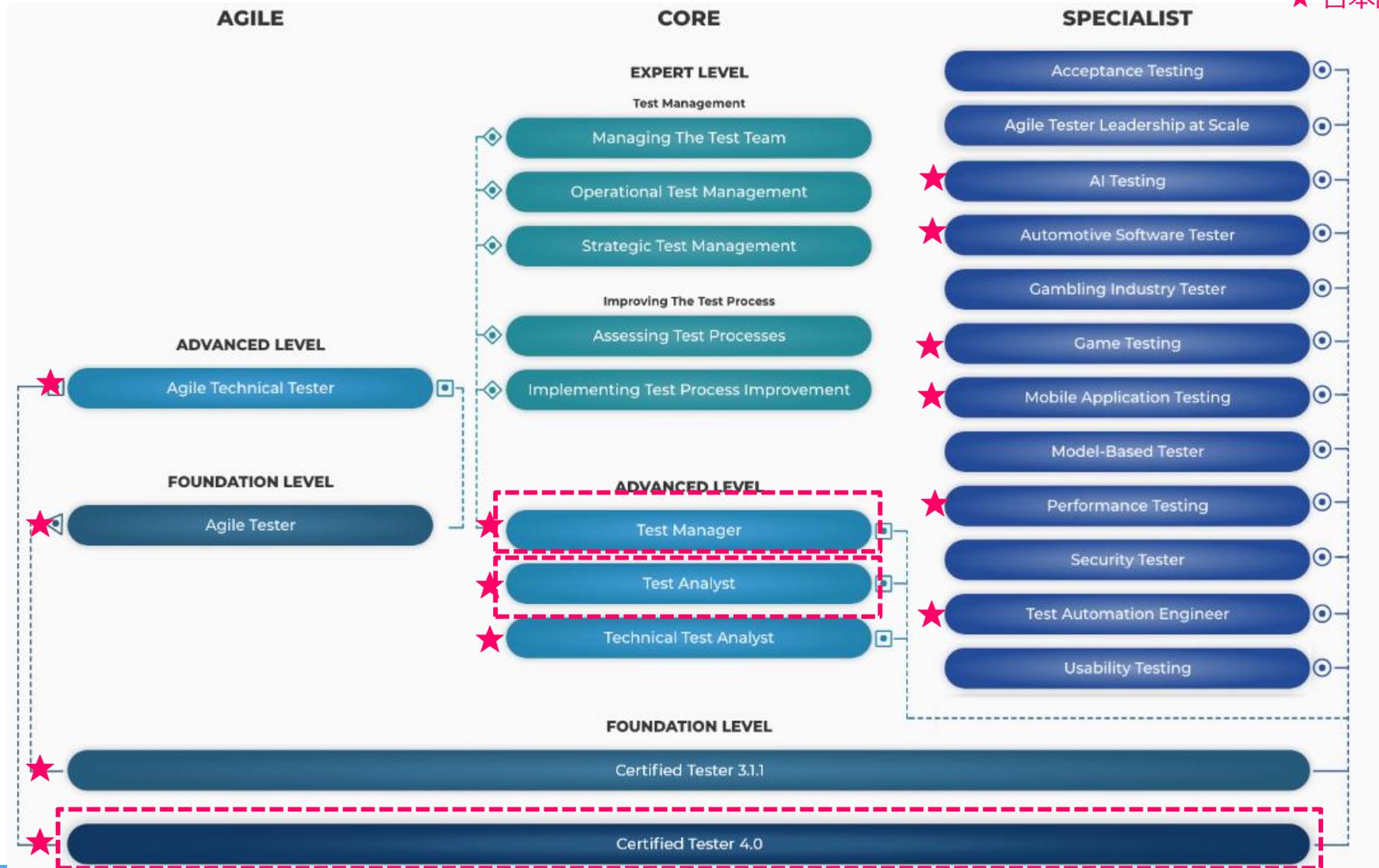


JSTQBのテスト技術者資格は、ISTQBを通じて加盟組織間で**相互認証される世界的資格**

日本での認定実施状況

日本で認定実施中

★ 日本語版シラバスリリース



シラバスの日本語版公開状況

- FL →2023年版の公開
- FL-AT(アジャイルテスター)
- AL-TM (テストマネージャ)
- AL-TA (テストアナリスト)
- AL-TTA (テクニカルテストアナリスト)
- AL-TAT (テクニカルアジャイルテスター)

Specialist

- テスト自動化エンジニア
- ゲームテスター
- 性能テスター
- AIテスター
- 自動車ソフトウェアテスター
- モバイルアプリケーションテスター

日本語版シラバスは
JSTQBのサイトより
無償でダウンロード
できます！

<http://jstqb.jp/>

FLシラバス2023 (Ver4.0) は何が変わったか？

1. FLシラバス2018 (Ver3) およびアジャイルテスト担当者のシラバスに基づくメジャーアップデートのため、アジャイル開発の要素が強くなった
2. 本質的なことは変わっていない
3. 他シラバスとの役割分担でいくつかのトピックが扱われなくなった
4. 用語の追加、変更
5. K3問題の入れ替え

FLシラバス2023(V4)の
「10 付録C - リリースノート」に
詳しい記載があるが、重要なポイント
をピックアップして解説する

1. アジャイル開発の要素が強くなった

- **FLv3.1.1 (2018) およびFLAT (アジャイルテスト担当者) の両方の知識を持った技術者**として認められる

- いままでは、アジャイル開発の知識を持った技術者として認定を受けるためには、FLの認定以外にFL-ATの認定が必要であった

- **アジャイル開発の要素**として追加されたこと

- アジャイル開発で実践されていること

- DevOps、CI/CD、実例マッピング、テストピラミッドなど

- テストをする人たちは、開発の中の別の組織ではなく、開発チームの一部だと考えて行動すること

- チーム全体アプローチなど

- コラボレーションベースのテストアプローチを行うこと

- ユーザーストーリーの共同執筆、受入基準、振り返りとプロセス改善など

2. 本質的なことは変わっていない

•FLを取得した技術者がビジネスで与えられる成果はほぼ同じ

FL2018

FL2023

FL-BO1	ソフトウェアテストを行う際に共通の語彙を使うことで効率的で効果的なコミュニケーションを促進する。	FL-BO1	テストとは何か、なぜテストが有効なのかを理解する。
FL-BO2	ソフトウェアテストの基本概念を理解する。	FL-BO2	ソフトウェアテストの基本的な概念を理解する。
FL-BO3	さまざまな状況で最も適切なテストを行うために当てはまる開発やテストのさまざまな実践例、テストを行う上でのさまざまな制約に対する理解を明示する。	FL-BO3	テストのコンテキストに応じて、実施すべきテストアプローチと活動を識別する。
FL-BO4	効果的なレビューに貢献する。	FL-BO4	ドキュメントの品質を評価し、改善する。
FL-BO5	テストを設計するために確立された技法をすべてのテストレベルで使用する。	FL-BO5	テストの有効性と効率性を向上する。
FL-BO6	ある特定のテスト仕様からテストケースを実装し実行する。テスト結果を報告する。	FL-BO6	テストプロセスとソフトウェア開発ライフサイクルを一致させる。
FL-BO7	リソース、戦略、計画、プロジェクトコントロール、リスクマネジメントに対するテストマネジメントの原則を理解する。	FL-BO7	テストマネジメントの原則を理解する。
FL-BO8	明確で理解しやすい欠陥レポートを記述して伝える。	FL-BO8	明確で理解しやすい欠陥レポートを記述して伝える。
FL-BO9	テストの優先度とテストアプローチを決定するプロジェクトの要因を理解する。	FL-BO9	テストに関わる優先度や労力に影響を与える要因を理解する。
FL-BO10	ソフトウェアテストがステークホルダーにもたらす価値を理解する。	FL-BO10	クロスファンクショナルチームの一員として働く。
FL-BO11	プロジェクトの目的、状況、対象に合わせてテスト活動を行い、作業成果物を作成する方法を認識する。	FL-BO11	テスト自動化に関するリスクと利点を知る。
FL-BO12	テストツールの選択および実装のプロセスを支援する。	FL-BO12	テストを行うために求められる必要不可欠なスキルを識別する。
		FL-BO13	リスクがテストに与える影響を理解する。
		FL-BO14	テスト進捗と品質を効果的にレポートする。

2. 本質的なことは変わっていない

- FLシラバスの章構成は同じ

FL2018

FL2023

1	テストの基礎	1	テストの基礎
2	ソフトウェア開発ライフサイクル全体を通してのテスト	2	ソフトウェア開発ライフサイクル全体を通してのテスト
3	静的テスト	3	静的テスト
4	テスト技法	4	テスト分析と設計
5	テストマネジメント	5	テスト活動のマネジメント
6	テスト支援ツール	6	テストツール

2. 本質的なことは変わっていない

• 変わっていないこと

- シラバスの目的、章構成、対象読者
- 受験要件、試験出題数、合格ライン
- 本質的なことは変更ないため、今までと同じように受験できる
- そのため、これまでの試験で取得したFL資格も有効となる

• 変わったこと

- シラバスに具体例の記載がほぼ無くなりスッキリしたが、シラバスだけだと具体的にわからないことが増えた
- LO（学習の目的）の数の調整がされた（学習内容がすこし増えた）
 - K1は15→14（これまでのFLとFLATでは21）
 - K2は40→42（これまでのFLとFLATでは52）
 - K3は7→8（これまでのFLとFLATでは8）
- 試験問題はLO単位で選択されて出題される

3.FLシラバスで扱われなくなったトピック

- テスト戦略とテストアプローチ
 - 他のシラバスにあるので、このシラバスでは扱わないというスタンス
- テスト組織（マネージャー／担当者という役割分担）
 - テストにマネジメントという役割が大事であることは書かれているが明示的に「マネージャー／担当者がやること」という記述がほぼなくなった
- テスト自動化についてほとんど取り扱われなくなった
 - 他のシラバスにあるので、このシラバスでは扱わないというスタンス
- レビュー技法（シナリオベース、ロールベースなど）
 - 他のシラバスにあるので、このシラバスでは扱わないというスタンス
- ユースケーステスト技法／デシジョンテーブルの単純化
 - 他のシラバスにあるので、このシラバスでは扱わないというスタンス

4.用語の変更、追加

- コンポーネント統合テストとシステム統合テスト
 - 統合テストは上記の言い方になった
- ブランチテストとブランチカバレッジ
 - デシジョンテストとデシジョンカバレッジの置き換え
- テストプロシジャール
 - いままで「テスト手順」と訳してたものの訳語を変更した
- アジャイル開発の用語
 - シフトレフト、デリバリーパイプライン、テストの4象限、DevOps、CI/CD、実例マッピング、テストピラミッドなど

5.K3問題の入れ替え

K3は具体的な適用を求められる問題であり、試験に向けて深い学習が必要となる

- なくなったLO

- (K3) 欠陥を検出するために、作業成果物にレビュー技法を適用する。

- 追加になったLO

- 4.5.3 (K3) テストケースを導出するために受け入れテスト駆動開発(ATDD)を使用する。
- 5.1.4 (K3) 見積り技法を用いて、必要なテスト工数を算出する。

6.試験について 概要

問題形式 選択問題

出題数 40問

合格ライン 65%

試験時間 60分

出題範囲 FLシラバス 日本語版 Version2023V4.0.J02

用語 <https://glossary.istqb.org/>

「使用されているシラバス」
で絞り込む

試験方法 CBT、PBT

試験開始日 2024/11/1(予定)



6.試験について 出題割合

Exam Structure and Rules(<https://www.istqb.org/certifications/certified-tester-foundation-level>)

K-Level	Number of Questions	Question Timing in minutes	Total Time by K-Level (Approximate)
K1	8	1	8
K2	24	1	24
K3	8	3	24
TOTALS	40		56

7. JSTQB公認教材、公認トレーニング

書籍



Exam Structure and Rulesに
基づいた模擬試験あり

トレーニング

2025年1月に
日科技連にて開催（予定）

日 時：2025年1月20日（月）～ 22日（水）

実施形態：ライブ配信

参加申込：<https://www.juse.or.jp/src/seminar/detail/99/29070>



8. JSTQB Conference in 2024 Autumn

開催日時 : 2024年10月9日(水) 13:00-18:00

開催形式 : オンライン (ZOOM)

参加費 : 無料

connpassにて参加受付中

基調講演-1

テストプロセスの改善

-実践の現状、課題、そして得られる利益

【講演者】

CEO TMMi Foundation

Improve IT Services BVコンサルタント

Erik Van Veenendaal



基調講演-2

「頼れるAI」に向けたアプローチ

～ LLM・生成AIによる変化と加速

【講演者】

国立情報学研究所 アーキテクチャ科学研究系 准教授

先端ソフトウェア工学・国際研究センター センター長

博士 (情報理工学・東京大学)

石川 冬樹





JSTQBに関するお問い合わせ窓口

JSTQB (Japan Software Testing Qualifications Board)

E-mail : query@jstqb.jp

※1:お問合せの内容によっては、検討後に回答させていただくものもあり、お時間をいただく場合があります

FAQもあわせてご利用ください

<http://jstqb.jp/faq.html>